与論町立与論小学校

与論小だより

令和4年10月19日

ブログはこちらから

学校教育目標　：　校訓「至誠」を胸に、未来に挑む子供の育成

成長の過程としての運動会

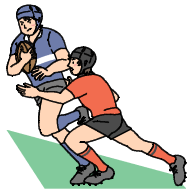
～可能性を信じ、努力を重ね、挑み続ける子供たちを目指して～

校長　　岩元　輝美

吹く風が秋を感じさせてくれます。本年度も後半戦へと移ってまいります。

さて、10月２日(日)に開催しました本校の運動会におきましては、競技や演技に全ての力を発揮しようと真剣に努力する子供一人一人に温かい御声援を送っていただきましたことに心よりお礼申し上げます。また、今年は、校区体協の皆様の御理解と御協力により地域種目も実施し、運動会に花を添えていただきました。さらに、多くのＰＴＡ会員・地域の皆様に、閉会式後の後片付けにも御協力いただきました。本当にありがとうございました。

天候に恵まれた運動会当日。子供たちは、本番に向けて練習を繰り返し、汗を流し、懸命に努力を積み重ねてきました。その成果を余すことなく発揮しようと真剣な表情で躍動している子供たち一人一人の姿は、観ている私たちに新鮮な感動を与えてくれました。下学年の子供たちは、応援席から上級生の力強くしなやかな動きを見て、憧れを抱くとともに、次の運動会に向けて新たな目標や夢をもったことと思います。最高学年である６年生にとっては最後の運動会でした。競技や演技だけでなく、競技役員として懸命に取り組んでくれました。審判係の６年生がゴールした下級生の背中にそっと手を添えて、ねぎらいの声をかけている姿に感動しました。運動会という行事は、本番を迎えるまでの練習の過程で子供たちの心身が鍛えられ、成長します。本番では、互いにその成果を確かめ合い、成功の喜びを分かち合うことによって、更に集団意識が高まり、強い絆で結ばれます。今回も例外なく一人一人の子供が自己の成長を実感することができた運動会だったと確信しています。



ところで、大きな目標や困難に挑もうと努力を重ね、心身共に大きく成長していく子供たちの姿は、７年前のラグビーワールドカップ予選リーグで優勝候補の南アフリカを破り、当時２４年ぶりの歴史的な勝利を飾った日本代表選手たちの活躍と重なるものがありました。感銘を受けた当時の新聞記事があります。「トライ　強いものにこそ挑む」というタイトルのものです。「W杯予選リーグでは南アフリカやスコットランドといった強敵が待ち受けている。ともすると逃げ出したい気持ちになるが、**挑まなければ勝つこともない。『逃げる』と『挑む』。部首が違うだけでこんなにも漢字の意味が変わるというなら、考え方ひとつで未来も結果も変わる。**人生もラグビーも自分より大きなものに立ち向かうからこそ面白いはずだ。強いものにこそ挑む。自分で自分の限界を決めるなんてつまらない。夢や目標、そしてライバルに挑む権利は誰にだってある。」この記事を読んで、始めから無理と諦めず、自分の可能性を信じて勇気をもって挑み続けることの大切さを改めて考えさせられました。

４月の学校だよりでお伝えしましたように、本年度から**学校教育目標**を**「校訓「至誠」を胸に、未来に挑む子供の育成」**としました。与論小のすばらしい伝統を引き継ぎつつ、変化が激しく予測困難な中で持続可能な社会の創り手となる子供たちに「未来に挑み続けていく力」を様々な教育活動をとおして培っていきたいと思います。